

2024年7月23日

J3（2021年期生）、修業年限短縮生及び継続生各位

近畿実務補習所運営委員会

## 2023年期・追論文の実施要領について

2023年期・追論文（第1回～第6回）を以下の要領で実施します。

提出期限内（**8月20日（火）まで**）に研究報告書を必ずデータで提出してください。

課題研究は、テーマに関する論理の展開、結論の導き方、文章表現など研究報告書作成についての全体的な構成能力等を評定します。

### 1. 対象者：J3、修業年限短縮生、継続生（2020年期生以前）

※追論文は上記の補習生が対象です。それ以外の補習生が提出しても採点対象とはなりません。

### 2. テーマ及び文字数：各実施回別に指定されたテーマ・文字数で研究報告書を作成すること。別紙参照

### 3. 追論文提出料：1回の追論文につき15,000円

※提出希望者全員（本科継続生含む）有料です。

### 4. 申込方法：eラーニングシステムにログイン後、「考査[追試験]・課題研究[追論文]申込」メニューを選択し、「一覧」から受験を希望する実施回を選択し「申込む」ボタンを押す。決済用のウェブサイトに移動するので、画面の指示に従ってクレジットカード／Pay-easy（インターネットバンキング）による決済手続きを完了させる。

決済完了後に、登録されているメールアドレスに受付完了のメールが届くので必ず確認すること。

### 5. 注意事項：追論文の申込期間は7月23日（火）17時から8月20日（火）23時59分までとする。締切後の申込は受けません。

申込締切日前にキャンセルを希望する場合は、eラーニングシステムからキャンセルしたい追論文実施回（申込締切日前のものに限る）をキャンセルすること。

申込締切日を過ぎた場合のキャンセルは返金および他の課題研究実施回への振替不可。

### 6. 提出について

●提出期限：2024年8月20日（火）23時59分までにデータ提出すること。

●データ提出方法：データは、マイページ（取得単位確認システム）から提出してください。登録手順・注意事項については、下記を参照ください。

### 【提出手順】

- ①マイページ（取得単位確認システム）へログインする。
- ②画面左「■課題研究提出等」をクリックする。
- ③提出する実施回と提出先補習所を確認し、所属する班を選択する。
- ④「提出ファイルの選択」をクリックする。
- ⑤自身の提出する班を確認し、「参照」より提出するMSワードデータを選択する。
- ⑥「提出ファイルの登録」をクリックし「参照」から作成データを選択することで登録完了となります。
- ⑦データ登録後、マイページより、登録データが確認できます。必ず確認すること。

**※提出先を間違えたものは採点しません。**

### 【注意事項】

- ※登録した課題研究データを必ず提出期間内にマイページ上段から確認してください。
- ※登録データが確認できない場合、採点されません。
- ※表紙と本論を一つのファイルで登録してください。（別々に登録はできません。）
- ※提出データを変更する場合は、再度登録を行ってください。（期限内のみ有効）
- ※データファイルを複数回提出した場合は、提出期限までに提出された最終のデータが採用されます。

## 7. 作成について<研究報告書の構成>

- ①表紙、②本論、③出典・参考文献でページを分けて明確に区別し、②本論にはページ番号を付けること。なお、出典・参考文献を記載する際には、出典・参考文献に関する注意事項を厳守すること。特に、引用箇所は、「」（引用符カッコ）でくくり、出典を明確（頁数も記載）にするとといった引用ルールを無視した場合、無断引用（剽窃行為）となり『不正行為』として処罰対象となるので注意すること。

## 8. 提出形式：

- ①指定の表紙フォーマットをダウンロードして使用すること。（近畿実務補習所HPに掲載）
- ②表紙には、「対象の実施回」、中央に「テーマ」、下部の「研究報告書作成にあたって」の各事項にチェックを入れ、「期、班、補習生カード番号、氏名及び字数」を必ず明記すること。

## 9. 作成に当たっての注意事項ほか

- ※別紙の課題研究提出前チェックシートを利用し、自身で事前にチェックを行うこと。
- ※別紙の出典・参考文献に関する注意事項を確認し、出典・参考文献を記載すること。
- ※他人の研究報告書の丸写しやウェブサイトからのコピー&ペースト、出典・参考文献に関する注意事項のルール無視による無断引用（剽窃行為）などを行った者は運営委員会で審議の上、相応のペナルティを科す。

以上

(別紙)

2023 年 期 追論文のテーマについて

【第 1 回課題研究テーマ】

公認会計士に求められている社会的役割を踏まえて、あなたが目標とする公認会計士の姿と、そのためにあなたが取り組んでいこうと考えていることを述べなさい。

【文字数】本論のみで 1,600 字 ~ 2,400 字

【第 2 回課題研究テーマ】

あなたは、2024 年 3 月 30 日(土)、当該上場企業の棚卸に 1 人で立会に行くことになった。棚卸の立会に行くに当たって、

1 事前準備として、やっておこうと思うこと

2 立会当日の行動として、あなたなりに工夫しようと考えていること

を理由を添えて、できる限り、具体的に述べなさい。ただし、監査調書に記録するような具体的なリスク評価・対応手続に関することだけに限らず、監査チーム内での意識合わせや、挨拶・講評などクライアントとのコミュニケーションに関することを含めても構わない。なお、当該企業の業種は、自由に設定してよいものとする。

【必要字数】本論のみで 1,600 字 ~ 2,400 字

【第 3 回課題研究テーマ】

大企業が減資により中小法人化し、税制上の優遇を得るケースが増加している。これを受けて、2024 年与党税制大綱では、減資により外形標準課税の課税対象から外れる法人の範囲を変更する方針が示されている。上記の状況を踏まえ、以下の ~ についてあなたの考えを論述しなさい。

中小法人税制の概要と制度趣旨

を踏まえて、大企業が減資により中小法人化することの評価

中小法人の判定基準としてあなたが有用と考える基準(複数の基準を比較して結論付けること)

【必要字数】本論のみで 3,200 字 ~ 4,400 字

#### 【第4回課題研究テーマ】

2023年4月に「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準」「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の実施基準」(以下、合わせて「基準」という。)が改正されました。今回の改正の背景や改正内容をまとめなさい。また、以下についても記載してください。

改正の中で、「業務プロセスの評価範囲の決定時の留意点が明確化」されました。具体的には、「重要な事業拠点の選定」時の指標について、例示されている「売上高等の概ね2/3程度」を機械的に適用すべきではないとされ、「概ね2/3程度」は一定割合にかかる注釈となりました。このように、「概ね2/3程度」が機械的に適用すべきではないとされたものの、削除されず注釈として残された理由を踏まえ、今後「概ね2/3程度」という記載を基準上どのようにすべきかについて、あなたの意見を述べなさい。

**【必要字数】本論のみで4,800字~5,600字**

#### 【第5回課題研究テーマ】

2023年3月に東京証券取引所がプライム市場及びスタンダード市場の全上場会社を対象に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の要請を実施しました。プライム市場上場会社で3割程度の会社が要請を踏まえた開示を行っていますが、要請への対応を行っていない会社、要請への対応を行っているが対応を行っていることが開示資料で要請への対応を明記していないため開示資料から要請を行っているかどうか分からない会社も存在します。

そこで、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取組みの検討・開示さらに促進するため、2024年1月15日に要請に基づき開示している企業の一覧を公表すると発表しました。

このように、多くの上場会社には、資本コストや株価を意識した経営の実現と開示が求められますが、東京証券取引所が「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の要請を実施した背景を述べた上で、資本コストや株価を意識した経営を実現し、資本収益性や市場評価を改善するために実施すべき事項について、あなたが経営者だったとして、あなたの意見を述べなさい。

**【必要字数】本論のみで1,600字~2,400字**

## 【第6回課題研究テーマ】

### リース基準の改定について

企業会計基準委員会（ASBJ）は、日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、借手のすべてのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に向けて、国際的な会計基準を踏まえた検討を行っている。

2023年5月の公開草案に対する意見では、リース業界を中心とした反対意見の他、IFRSと完全に一致させるべきという趣旨の意見も寄せられている。公開草案の内容及び公開草案に寄せられた意見（ASBJのHPにて公開）を参考に、公開草案に対して賛成・反対の立場を示しその理由を述べなさい。

#### <補足>

公開草案について部分的に賛成、反対の立場が変わる場合には、それが分かる形で示して論じて問題ありません。その場合、基準としての首尾一貫性が担保されているか留意する事。

**【必要字数】本論のみで6,400字～7,200字**

## 表紙記入例

提出期限：2024年 月 日

## 近畿実務補習所第 回課題研究

各回の、期限、回、テーマは表紙フォーマットにあらかじめ記載しています。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; color: red; font-weight: bold;">にチェック☑を入れる。 チェック漏れは減点対象です。</div>					
研究報告書作成にあたって 各事項にチェック(レ)を入れてください					
私は、研究報告書作成における以下の事項を遵守し、研究報告書を提出します。					
<input checked="" type="checkbox"/> 私は、ルールを遵守し他の文献やウェブサイトからの引用には引用符を用いてその出典を明らかにし、無断引用を行っていません。					
<input checked="" type="checkbox"/> 私は、他の補習生の研究報告書を参考にしたり、写したりしていません。					
<input checked="" type="checkbox"/> 私は、自身の経験等に基づく記述をする場合において、業務の過程で入手した情報など守秘義務の原則に抵触する記述を行っていません。					
<input checked="" type="checkbox"/> 私は、AIソフト等を使用して文書作成を行っていません。					
期:	2023	班:	1	補習生カード 番 号	202312345
氏名:	近畿 太郎			本論字数	2,123
[採点者コメント内容面]					<b>点 数</b>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; color: red; font-weight: bold;">期・班・補習生カード番号は半角で正確に 記載すること。</div>					(形式不備減点) 0点、1点~5点、6点~10点 11点~15点、16点以上
					[採点者コメント形式面]
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; color: red; font-weight: bold;">Word等の「文字カウント機能」を使い 本論のみの字数を確認すること(空白・ 図・表はカウントに含めない)。</div>					(最終点数)

本論はこのページから記載すること。  
40字×40行に設定しています。

## 出典・参考文献に関する注意事項

## ＜出典に関する注意事項＞

## 1. 注意事項

- (1) 引用箇所は、「」（引用符カッコ）でくくり、出典を明確（頁数も記載）にすること。また、ウェブサイトからの引用の場合は、そのアドレス（URL）とアクセスした日を記載する。
- (2) 引用・注記の表示は著者名、発表年と頁を（ ）で囲んで入れる。
- (3) 引用や注記をする場合には、必ず出典（出所）を明らかにする。
- (4) 法令、通達、基準、指針等公になっているものは出典に記載する必要はない。

## 2. 記載方法

- (1) 日本語の場合は、単行本・雑誌名は『 』で、論文名は「 」でくくる。一方、欧文の場合は、単行本は書名を、論文の場合は雑誌名を、それぞれイタリック体で記載する。
- (2) 共著の場合は、カンマで区切って記す（東京太郎，東海次郎，近畿三郎，九州四郎）か、最初の1人の著者名のみを記し後ろに「ほか」と記す（東京太郎ほか）
- (3) 単行本は次の順序で表記する。なお、発行年が同じものが複数存在する場合、発行年に a、b…をつける。

単行本	著者（编者）名、発行年、『書物名』、発行所
-----	-----------------------

- (4) 論文は次の順序で表記する。なお、発行年が同じものが複数存在する場合、発行年に a、b …をつける。

論文	著者名、発行年、「論文名」『収録書物名（または雑誌名）』巻数・号数、掲載頁
論文 (Webページ)	著者名、「論文名」サイトの運営団体名、アドレス（URL）、（最終アクセス年月日）

- (5) 紀要や雑誌の論文・記事は次の順序で表記する。

紀要や雑誌の 論文・記事	著者名、「論文・記事のタイトル」、『雑誌名』、巻数・号数、発行年月、（該当ページ：出典の場合）
-----------------	---

- (6) 新聞記事は、次の順序で表記する。

新聞記事	署名記事の場合の著者名、「記事のタイトル」、『新聞紙名』発行年月日、朝夕刊の別、（該当面数：出典の場合）
新聞記事 (Webページ)	新聞社名、『記事のタイトル』、アドレス（URL）、最終アクセス年月日

- (7) Web ページの場合は次の順序で表記する。

Webページ	著者名、「Webページのタイトル」、アドレス（URL）、最終アクセス年月日
--------	---------------------------------------



### 3. 記載例

(1) 「 」 (カッコ) で直接引用する場合

…であるが、「法22 条4 項は、企業会計を意味する」(長嶋 (2016) 、199 頁) ことになる。

(2) 要約する場合

長嶋 (2016) によると、……という解釈になる (193-195 頁) 。

(3) 脚注で引用や補足する場合

税法は、情報提供に重きをおく企業会計とは、ますます乖離するであろう<sup>8)</sup>。

注 (8) 鈴木 (雅) (2015) 、202 頁参照。

※鈴木雅彦と鈴木茂雄の2 名を参考文献に挙げている場合は、(雅) か (茂) で区別する。

※著者名等はすべて架空のものです。

#### 【単行本の場合】

(1) 中村花子 (1998) 『アメリカ管理会計の理論』経営図書出版。

(2) 山下仁義監訳、斎藤 隆・西崎真一共訳 (2008) 『監査人の責任としての透明性』東京会計書籍。

#### 【論文の場合】

(1) 青木太郎 (2009) 「企業会計の利害調整機能—会社法との比較を中心に—」『会計ジャーナル』第 66 巻第1 号、32-47 頁。

(2) 加藤 登 (2015a) 「企業会計と自治体会計の相違」『経理実務』第68 号、15-26 頁。

(3) 加藤 登 (2015b) 「自治体監査の特徴」『自治体会計研究』第25 巻第3 号、35-38 頁。

#### 【欧文の場合】

(1) Abcde, Fghij K. (19xx), *Lmn Opqrs-T Study in the Uvwxyz*, Zyx Smith.

(2) Edcba, Jihgf T. , S.Rqpo Lmn, Zyxwvu A. Bcde (19xx), *Auditors and the XXX of YYY*, *The Journal of Zzzz* Vol. 23, No. 4, pp. 55-66.

(3) Xyz Institute of Certified Public Accountants (XICPA), The XXX Committee on Financial Reporting (19xx), *Improving Business XXX Reporting: Information Needs of Vwxyz Investors*. Xyz Institute of Certified Public Accountants (※川本健夫・浜本海彦共訳 (200x) 『〇〇の改善報告』太陽書店) .

#### 【Webページの場合】

青山花子 「景気後退リスクを抱える国」 <https://aabbcc/> (最終アクセス年月日: 2022年4月1日)

#### 【新聞記事(webページ)の場合】

NK新聞『AB 社、社株式の非上場化に向けた検討』 <https://aabbcc/>、(最終アクセス年月日: 2022 年 4 月 1 日)

※著者名、論文名、発行所等はすべて架空のものです。

以上

## <参考文献に関する注意事項>

### 1. 注意事項

- (1) 論文の最後に掲載する参考文献の一覧は、日本語の文献（著者氏名の五十音順）、欧文の文献（ファミリーネームのアルファベット順）の順に記載する。
- (2) 参考文献について記載のない場合においても、巻末に「参考文献なし」と記載すること。
- (3) 参考文献を明記しない場合、論文の盗用とみなされる場合があるので注意すること。
- (4) ウィキペディアや専門学校のテキストは参考文献として認めない。
- (5) 法令、通達、基準、指針等公になっているものは参考文献に記載する必要はない。

### 2. 記載方法

- (1) 日本語の場合は、単行本・雑誌名は『 』で、論文名は「 」でくくる。一方、欧文の場合は、単行本は書名を、論文の場合は雑誌名を、それぞれイタリック体で記載する。
- (2) 共著の場合は、カンマで区切って記す（東京太郎，東海次郎，近畿三郎，九州四朗）か、最初の1人の著者名のみを記し後ろに「ほか」と記す（東京太郎ほか）
- (3) 単行本は次の順序で表記する。なお、発行年が同じものが複数存在する場合、発行年に a、b…をつける。

単行本	著者（编者）名、発行年、『書物名』、発行所
-----	-----------------------

- (4) 論文は次の順序で表記する。なお、発行年が同じものが複数存在する場合、発行年に a、b…をつける。

論文	著者名、発行年、「論文名」『収録書物名（または雑誌名）』巻数・号数、掲載頁
論文 (Webページ)	著者名、「論文名」Webページの運営団体名、アドレス（URL）、最終アクセス年月日

- (5) 紀要や雑誌の論文・記事は次の順序で表記する。

紀要や雑誌の論文・記事	著者名、「論文・記事のタイトル」、『雑誌名』、巻数・号数、発行年月
-------------	-----------------------------------

- (6) 新聞記事は、次の順序で表記する。

新聞記事	署名記事の場合の著者名、「記事のタイトル」、『新聞紙名』、発行年月日、朝夕刊の別、
新聞記事 (Webページ)	新聞社名、『記事のタイトル』、アドレス（URL）、最終アクセス年月日

- (7) Web ページの場合は次の順序で表記する。

Webページ	サイトの運営団体名、Webページのタイトル、アドレス（URL）、最終アクセス年月日
--------	---

### 3. 記載例

#### 【単行本の場合】

- (1) 中村花子 (1998) 『アメリカ管理会計の理論』 経営図書出版。
- (2) 山下仁義監訳、斎藤 隆・西崎真一共訳 (2008) 『監査人の責任としての透明性』 東京会計書籍。

#### 【論文の場合】

- (1) 青木太郎 (2009) 「企業会計の利害調整機能—会社法との比較を中心に—」 『会計ジャーナル』 第66 巻第1 号、32-47 頁。
- (2) 加藤 登 (2015a) 「企業会計と自治体会計の相違」 『経理実務』 第68 号、15-26 頁。
- (3) 加藤 登 (2015b) 「自治体監査の特徴」 『自治体会計研究』 第25 巻第3 号、35-38 頁。

#### 【欧文の場合】

- (1) Abcde, Fghij K. (19xx), *Lmn Opqrs-T Study in the Uvwxyz*, Zyx Smith.
- (2) Edcba, Jihgf T. , S.Rqpo Lmn, Zyxwvu A. Bcde (19xx), Auditors and the XXX of YYY, *The Journal of Zzzz* Vol. 23, No. 4, pp. 55-66.
- (3) Xyz Institute of Certified Public Accountants (XICPA), The XXX Committee on Financial Reporting(19xx), *Improving Business XXX Reporting : Information Needs of Vwxyz Investors*. Xyz Institute of Certified Public Accountants (※川本健夫・浜本海彦共訳 (200x) 『〇〇の改善報告』 太陽書店) .

#### 【Webページの場合】

青山花子「景気後退リスクを抱える国」 <https://aabbcc/> (最終アクセス年月日：2022年4月1日)

#### 【新聞記事(webページ)の場合】

NK新聞『AB社、社株式の非上場化に向けた検討』 <https://aabbcc/>、(最終アクセス年月日：2022年4月1日)

※著者名、論文名、発行所等はすべて架空のものです。

以上



## 課題研究提出前チェックシート

	確認項目	チェック
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究報告書作成ガイダンス講座（動画）を視聴しているか。</li> <li>・ 課題研究実施要領を読み内容を確認しているか。</li> <li>・ 提出するテーマは正しいか。（他のテーマを選択していないか）</li> <li>・ 制限字数（上限・下限ともに）を確認しているか。</li> </ul>	
表紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択した「テーマ」の内容は正しいか。</li> <li>・ 「研究報告書作成にあたって」の全ての項目にチェックをしているか。</li> <li>・ 「期」、「クラス」、「補習生カード番号」、「氏名」及び「字数」を記載しているか。</li> </ul>	
形式面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ページ下部にページ番号を記載しているか。</li> <li>・ 他の文献やウェブサイトからの引用部分に引用符「            」を使用しているか。</li> <li>・ 過度な引用になっていないか。（自身の論述と引用のバランスは適切か）</li> <li>・ 誤字・脱字が無いことを確認しているか。</li> <li>・ 制限字数の上限～下限の中で記述できているか。</li> </ul>	
出典 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他文献等やウェブサイトからの引用に際し、その引用元（出典）を明らかにして全て記載しているか。</li> <li>・ 参考文献を全て記載し、参考文献がない場合は「参考文献なし」と記載しているか。</li> <li>・ 参考文献、出典は記載例に従い正しく記載できているか。</li> </ul>	
その他 [宣誓]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引用部分での引用符の使用漏れや無断引用はないことを確認したか。</li> <li>・ 他の補習生の論文を参考にしたり、写したりしていないか。</li> <li>・ 自身の経験等に基づく記述をする場合において、業務の過程で入手した情報など守秘義務の原則に抵触するような記述を行っていないか。</li> </ul>	